

週 報



「笑門来福」

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南
 住所 日南市園田 3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX0987-22-9588

会長 山口秀一

地域社会の経済発展月間・米山月間

第 3223 回例会	No.15	2019. 10. 23	曇り
点鐘・国歌・ロータリーソング	12 時 30 分	「それでこそロータリー」	
四 つ の テ ス ト	黒岩久登 君		
例 会 行 事	会員卓話 (石崎智則君)		

会長時間

10 月 24 日は「世界ポリオデー」です。平和とポリオ撲滅を支援した故・ネルソン・マンデラ氏の映画「インビクタス/負けざる者たち」があります。

舞台は 1994 年、悪名高きアパルトヘイト（人種隔離政策）が廃止されたばかりの南アフリカ。それまで反体制のテロリストとして投獄されていたネルソン・マンデラが南ア初の黒人大統領となり、肌の色を問わず国民が共存できるレインボー・ネーション（虹色の国）を目指す様子を描く。そしてマンデラは、1995 年に自国で開催されるラグビー W 杯を最高の機会と捉え、アパルトヘイトの象徴だった代表チーム、通称“スプリングボックス”を勝てるチームに、そして平和の象徴として立て直すべく、主将ピナールと共に改革に乗り出す。

1996 年、ナイジェリアをはじめとするアフリカ諸国では、ポリオの予防接種が重要視されていませんでした。ほかにあった多くの保健問題や、資金不足から、ポリオ撲滅は国家的な課題としてとらえられておらず、アフリカでのポリオ撲滅活動には、強力な推進者が必要されていたのです。「そこで、協力をお願いしたのが、今は亡きネルソン・マンデラ氏でした」と語るのは、ハーブ・ブラウン 1995-96 年度ロータリー会長。「彼がアフリカでのポリオ 予防接種復活を応援するようお願いすると、マンデラさんはとても熱心に耳を貸してくれました」。マンデラ氏は、「投獄中にも、ロータリーが行っていた活動について知っていました」と答え、後にブラウンさんとともに臨んだ記者会見で、全国予防接種日の実施に協力するよう、アフリカ諸国の元首に呼びかけました。

マンデラ氏はさらに、1996-97 年度、当時のルイス・ジアイ・ロータリー会長とロータリー財団管理委員長とともに、「キックアウト・ポリオ」キャンペーンの立ち上げを支援しました。このキャンペーンは、サッカー試合でポリオ撲滅のアピールを行ったり、有名人が撲滅の公共広告に登場したりすることで、一般の人々のポリオ予防接種に認識を高め、その結果、30 を超えるアフリカ諸国で、初の全国予防接種日が実現しました。ロータリーは 1997 年、マンデラ氏の大きな貢献に感謝し、当時ロータリーからの荣誉としては最高のものであった、「ロータリー国際理解と平和賞」を贈りました。ジアイ元会長は、当時を振り返ってこう語ります。

「マンデラ大統領を受賞者に選んだのは、世界平和、人権擁護、民衆の自由への貢献が理由でした。世界のロータリー会員は特に、マンデラ氏がアフリカ全土でのポリオ撲滅を協力に応援していただいたことに感謝していました」受賞に際してマンデラ氏は、「この賞を南アフリカの人々にささげます。ロータリーのポリオ撲滅の取り組みは、世界の人々が子供たちを救うために知恵と力を結集すれば、どんなに大きなことが達成できるかを示しています」と述べました。

マンデラ氏は、この賞の賞金 10 万ドルを、「ネルソン・マンデラ児童基金」の設立に投じました。南アフリカのロータリー会員は、亡きネルソン・マンデラ氏を、「20 世紀最大の自由・平等の支援者の一人」に数えるとともに、「南アフリカの父」、「奉仕のリーダー」と称えています。また、時のロン・バートン ロータリー会長は、次のように述べています。「マンデラ氏は想像を絶する苦難を乗り越え、現代最高のリーダー、そして

最高の人道主義者の一人となりました。マンデラ氏の勇気と、確固たる決意、そして情熱は、私たちが平和でよりよい世界を目指して活動する上で、今後もおおきな励ましとなることでしょう」

委員会報告

青少年奉仕委員会 少年野球大会開催の件 開催日 11月23日(土)

スマイル

山口秀一君 わかば奨学金授与式の記事が宮日に掲載されましたのでスマイルします。

村岡俊宏君 日曜日にお墓参りをしました。秦基博君も家族とお墓参りをしていました、どこにでもいる普通の青年でした。何度か目が合いましたが声をかける事が出来ませんでした。

例会行事

会員卓話 石崎智則君 SDGsとは



SDGsは昨今、企業経営を語る上では、欠かせないキーワードであり、企業の社長様の中にもSDGsに関して思いを巡らせていらっしゃる方も少なくないと思われます。

本日ご説明する内容は、すでにご存知の内容もあるかと思いますが、今一度、SDGsに関するご理解を整理頂き、今後の企業経営に活かしていただければと思います。

SDGsとはSustainable Development Goalsの略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。2015年9月の国連サミットにおいて採択され、2030年までの15

年の間に世界が目指す希望の目標です。

SDGsは「2030アジェンダ」という行動計画の中に定められている具体的な目標になります。(「アジェンダ」というのは「行動計画」という意味です。)SDGsは、17個のゴールと169個のターゲットで構成され、お互いが相互につながりあったもので、持続可能な世界への道しるべとなっています。

ここで少し歴史について触れさせていただきます。このSDGsの考え方は、突然出てきたものではありません。SDGsが作られる前には、MDGsという別の行動計画がありました。「Millennium Development Goals」ミレニアム開発目標というものです。ミレニアムイヤーである西暦2000年に作られ、2000年から2015年までの間、途上国の貧困問題を解決するための行動計画が取り組まれていました。

そのMDGsが最後を迎えるにあたり、次への課題が浮き彫りになりました。それは、「このままでは地球がもたない」という危機感と「グローバル化の進展に伴う格差の拡大、不平等」の拡大です。そこでSDGsの議論が始まり、途上国と先進国の問題を一緒に考える次の15年間の目標が制定されました。SDGsはあくまで自主的な約束であり、強制力はありません。しかし、国連と世界の人々が長年追い求めてきた理想の集大成として、世界中のあらゆる国々、自治体、企業がSDGsに向かって動き始めています。既にご覧いただいたことがあるかと思いますが、こちらがSDGsの世界共通のロゴになります。ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんも記者会見でつけていました。

民間企業の具体的な取り組み事例について説明致します。

ここでは、民間企業であります「日本フードエコロジーセンター」という神奈川県の子会社の取り組み事例について紹介致します。当社は2018年度SDGsアワードにおいて最高の賞である総理大臣賞を受賞しています。当社はSDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」でも問題提起されている「食品ロス」に着目し、食品廃棄物から飼料を製造する技術を開発しました。食品廃棄物の削減につながることは当然ながら、これまで穀物の相場に影響を受ける飼料を使用せざるを得なかった畜産農家に、穀物相場に影響の受けない飼料を供給することで、畜産経営の安定化にも貢献しています。加えて、この飼料で育った豚をブランド化することで、養豚事業、小売業者、消費者を巻き込んだ循環型社会を構築しました。まさに、事業とSDGsを両立できているビジネスモデルと言えます。

日本のSDGsの取り組みに対する評価を紹介致します。

SDGs全体の達成状況については、156か国中15番目とまずまずの評価を受けております。

しかしながら、個別目標毎の評価についてはまだまだ課題があります。17の目標の内、最も高い評価を受けたのは「ゴール4 質の高い教育をみんなに」1つのみとなっております。

一方で、日本の目標達成が困難であるといわれている項目は5つあります。「ゴール5 ジェンダー平等を実現しよう」…世界経済フォーラムが公表する「ジェンダーGAP指数」という指数がありますが、2018年のデータでは、日本は149か国中110位。健康・教育・政治・経済の4分野で評価される指数ですが、健康・

教育の分野では高い評価を得ている一方、政治・経済の分野で非常に低い評価となっていることが要因です。
「ゴール12 つくる責任 つかう責任」…大量生産、大量消費、大量廃棄が要因です。特に、フードロスの問題や電子部品機器のリサイクルがまだまだの状況です。

「ゴール13 気候変動に具体的な対策を」…再生可能エネルギーの利用割合が、先進国では50%であるのに対し、日本は25%と遅れていることが要因です。

「ゴール14 海の豊かさを守ろう」…プラスチックごみに起因する海洋汚染や、日本は魚の大量消費国であり、魚の取りすぎ（水産資源の濫用）が要因です。

「ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう」…途上国へのお金の支援面が要因です。日本のODA 予算は、10年間で約4割のマイナスと、日本政府が財政再建に取り組んでいるなか、減少が続いています。以上の理由から、5つの目標については達成が難しいとされています。

これまでの説明から、グローバルベースでSDGs達成に向けた動きが活発化していることがお分かりいただけたのではないのでしょうか。

今後は企業活動を行っていく上でも、SDGsに関する取組の強化がますます求められてくるでしょう。まずは自分のできることを見つけて行動してはいかがでしょうか。

宮崎銀行としても、今後推進を図っていきたいと考えております。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今 週	35	3	32	21	6	5	27	84.37%
出席免除	村上、渡邊、古澤							
先取MU	小玉、清水、豊田、濱砂、村社、宮田							
欠 席	斉藤、峰松、阿部、桑村、榎木田							

茜会コンペ報告

10月27日（日）トム・ワトソンゴルフコースにて、第212回茜会コンペが行われました。優勝者は宮田真一郎君でした。

順位	名前	OUT	IN	グロス	HDCP	NET	新H
優 勝	宮田真一郎	50	46	96	24	72	22
準優勝	鬼束忠男	51	59	110	30	80	
3位	竹井崇利	54	58	112	30	82	
4位	井野畑善順	54	59	113	30	83	
5位	守永裕一	49	46	95	11	84	
6位	土屋昭次	61	54	115	30	85	
7位	濱砂睦司	54	59	113	26	87	
8位	山口秀一	55	59	114	24	90	



写真撮影は竹井崇利君でした。

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：山口秀一 副会長：村岡俊宏 幹事：入中英雄 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jpまで送信してください。